

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書1章14~18節>

①「イエス様が大事」ということの意味が示されている！

「言は肉となって、私たちの間に宿られた」(14)。イエス様のことですね。問題は、「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」(1)、この「言」がなぜイエス・キリストとなって「私たちの間に宿られた」のかです。その答えは18節で語られています。「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」(18)。神様は、イエス様を通してご自分を私たちに示そうとされたのです。「私たちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた」(14)、とある通りです。私たちが神様の全てを知ることはできませんし、知る必要もありません。私たち人間が生きて行くために必要なことだけ知りさえすれば十分なのです(出エジプト記 33:18-23 参照)。それは何か？「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(3:16)、ということです。「イエス様が大事」と言うのは、以上のような意味を持っているからなのです！

②伝わって来るヨハネの喜び。私たちもその喜びに与れる！

先週までの所では「言」「光」「命」という言葉が多く使われていましたが、今日の箇所では「恵み」「真理」という言葉が多用されています。これらからこの福音書を書いたヨハネの喜びが伝わって来ます。「私たちは皆、この方の満ち溢れる豊かさの中から、恵みの上に、さらに恵みを受けた。…恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである」(16-17)、と言っている通りです。イエス様自身が言われた言葉、「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、誰も父のもとに行くことができない」(14:6)を思い出します。最近、この「道→真理→命」の順番についてよく思い巡らします。イエス様は愛の神様に私たちがたどり着くための「道」であり、この神様の私たちへの愛を知ることこそが最高の「真理」であり、それによって私たちは全てをお委ねできる平安、すなわち、真の「命」を得ることができるのです。神様が取られたこの仕方(イエス様による救い)につくづく感服です！